

2. 一健忘症例に対するOTアプローチ

——電子手帳使用の試み——

○小川 亜紀子¹⁾

本田 哲三²⁾

- (1) はじめに 早急に職場復帰を強いられた頭部外傷後の一健忘症例に対し、チームアプローチで電子手帳使用訓練を施行したので、その経過とOTアプローチについて報告する。
- (2) 症例 21歳女性。1993年3月下旬交通事故にて受傷、同日当院搬送となる。CT上脳室の狭小化が認められ、脳挫傷、び慢性脳腫脹の診断にて4月よりOT施行。その後運動能力機能の改善に伴い、自ら記憶力の低下を訴えるようになった。
- (3) 導入前評価 PASAT より軽度注意障害、ベントン視覚記銘力検査、三宅式記銘力検査より軽度記憶障害が認められた。
- (4) 電子手帳使用訓練 手帳は一週間スケジュール管理として用いた。課題内容は、1) 予定時刻に ST 訓練室に行く、2) 予定時刻に Dr. に電話する、3) 家庭にて指定した番組をビデオにとり翌日 Nrs. に渡す、である。これらをOTが中心に設定し、毎週月曜日にこれら6つの課題を与え手帳に入力させた。プログラムは前期(第1, 2, 3週目)はまず3日間のkey操作訓練後第1週目は指示なし、第2, 3週目その日の外来訓練開始前に手帳を開き、スケジュールを確認するように指示をした。後期(第4週目)より自らがあらかじめ予定時刻のアラームをセットするよう指導した。1週間の課題すべて実行した場合を課題遂行率100%とし集計した。
- (5) 結果 第1週目では、課題遂行率33%、第2週は75%、第3週目は40%であった。第4週目には100%となった。本プログラム終了後、復職し、手帳は私的なスケジュール管理に用いられている。
- (6) 考察 本症例は早急な職場復帰の必要性があったため電子手帳のアラームによるスケジュール管理を導入し、これらを可能とした。短期間ではあったがアラームの手がかりは本症例には有用であった。比較的軽度な記憶障害患者には電子手帳は有用な可能性はある。

1) 東海大学医学部付属病院リハビリテーションセンター

2) 東京都リハビリテーション病院